



令和4年度愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業

基調報告

ノーリフティングケアの 効果等について

2023.3.20



愛媛県介護実技普及指導員
守谷理佐 井下ゆかり

目次

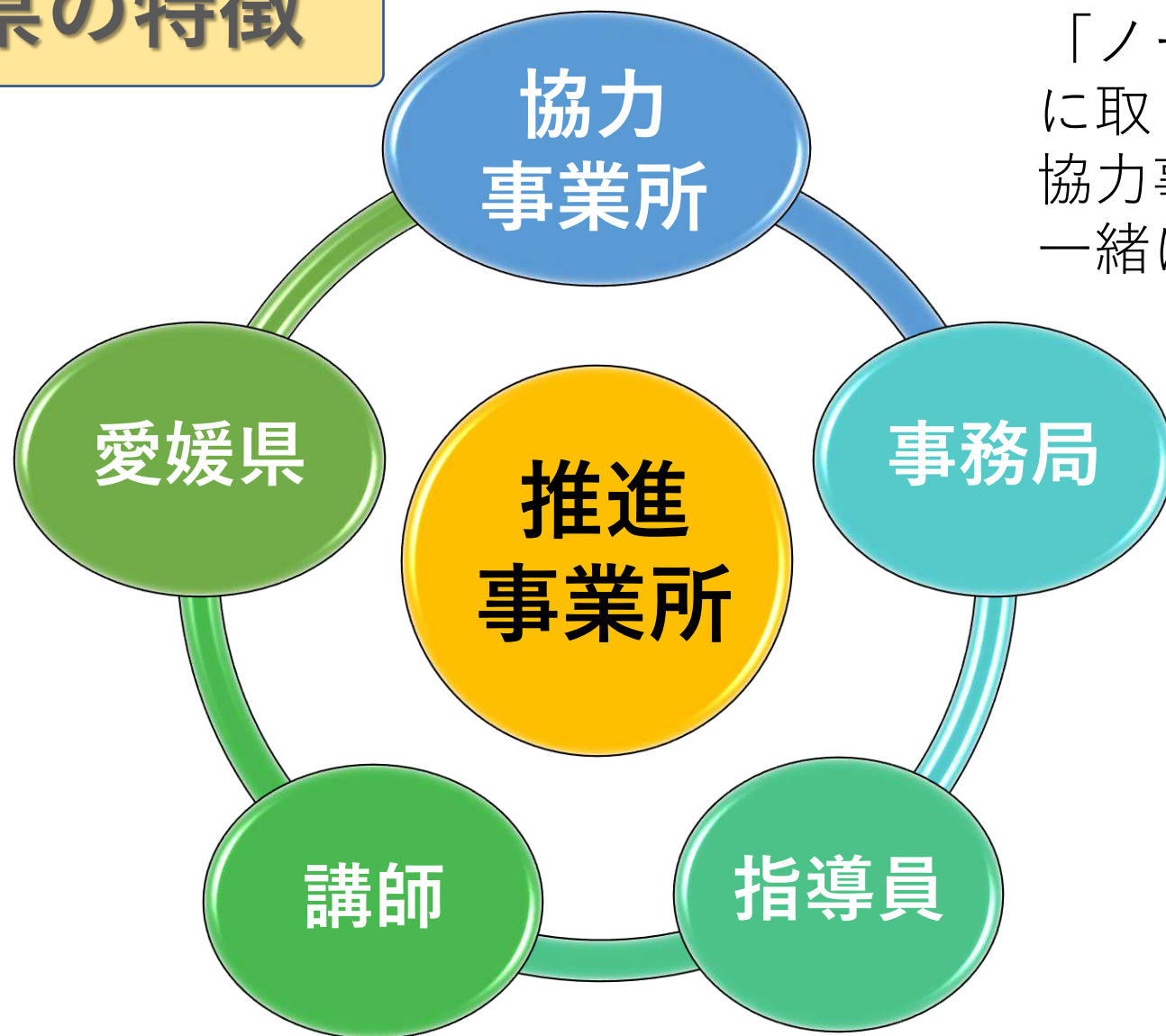
1. はじめに
2. ノーリフティングケア普及啓発事業の目的
3. ノーリフティングケア普及啓発事業の流れと課題
 - ・実施内容
 - ・今年度の課題
4. 令和4年度導入前アンケートについて
5. ノーリフティングケア普及啓発事業の効果について

はじめに

令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業

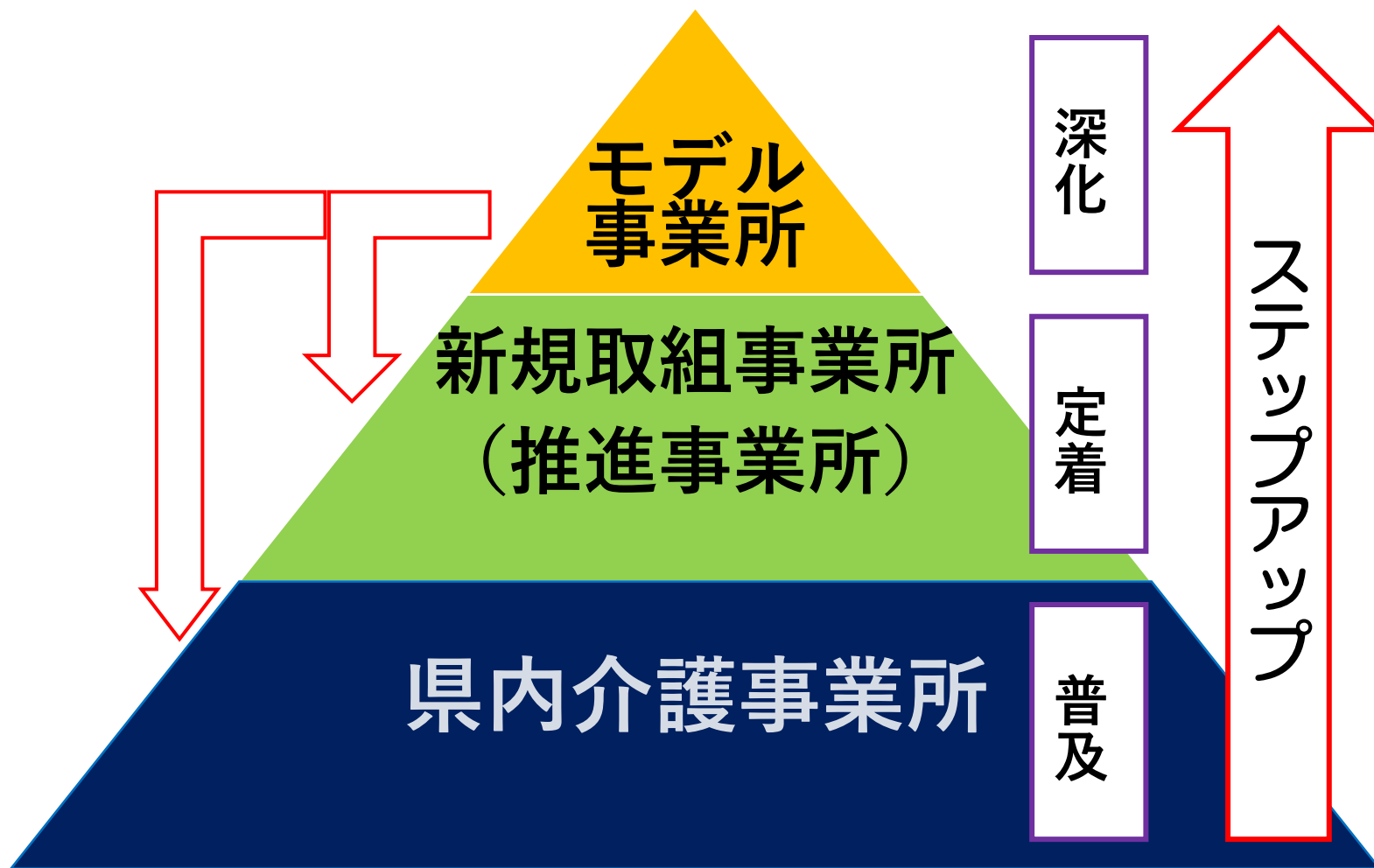
- 愛媛県
- 愛媛県社会福祉協議会
- 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 推進事業所
- 令和元年～令和3年度の
愛媛県ノーリフティングケア普及啓発モデル事業所が協力事業所として参加
 - ・特別養護老人ホーム ル・ソレイユ
 - ・特別養護老人ホーム みどりの郷
 - ・デイサービスセンター かおり
 - ・老人保健施設 ふじの園
 - ・地域密着型特別養護老人ホーム 開明の杜
 - ・特別養護老人ホーム つわぶき荘
- 愛媛県介護実技普及指導講師・指導員

愛媛県の特徴



令和元年～3年度
「ノーリフティングケア」
に取り組んだ事業所が
協力事業所として
一緒に訪問し、アドバイス

【モデル事業所は指導的存在へ】



愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業の目的

- 介護従事者の離職防止
- 介護人材の安定的確保



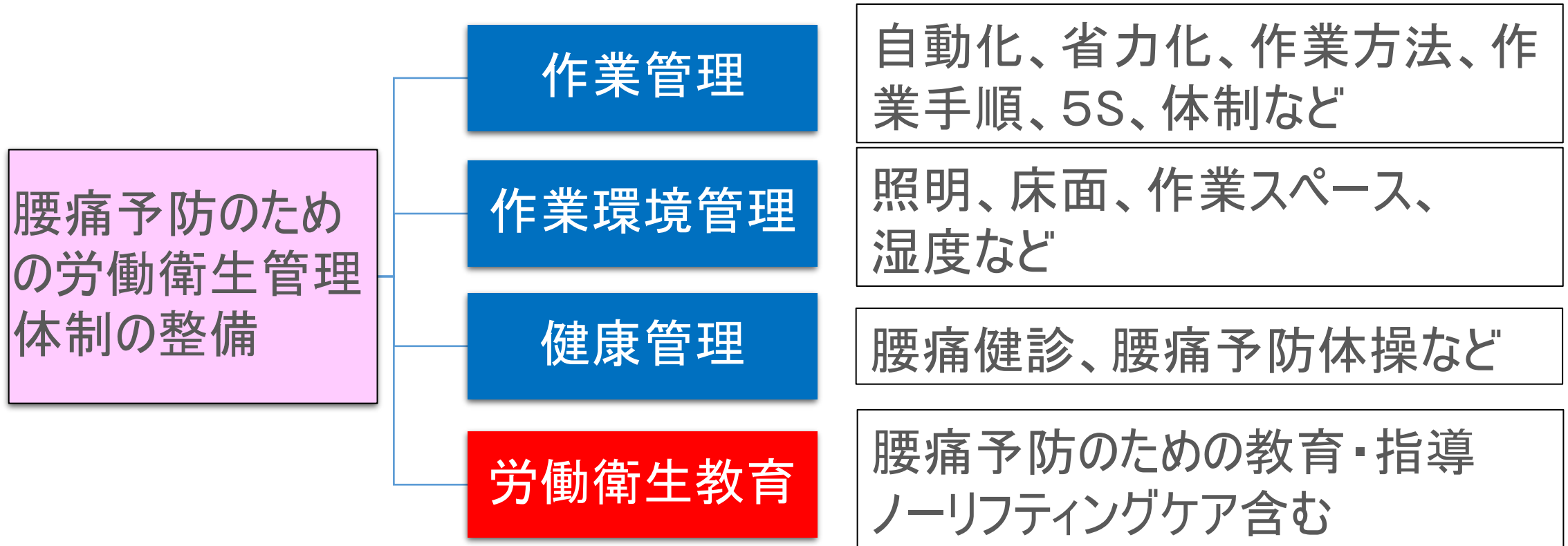
- 要介護者及び介護従事者双方の負担軽減
- ケアの質の向上



- 要介護者の自立度を考慮した適切な福祉用具・機器の活用
- 身体機能・構造に即した介護技術の実践
- 介護従事者が、腰痛など職業に起因する健康上の不安なく働くことができる職場環境作り

労働衛生管理体制

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署



◆リスクアセスメントを行い、作業管理、作業環境管理、健康管理、労働衛生教育を的確に組み合わせて、総合的に実施
労働安全衛生マネジメントシステムの活用が重要

◆介護者の負担軽減

労働衛生管理

- ・働きやすい環境づくり

腰痛予防、勤務体制、服装・靴、段差、空調、
5S、福祉用具など

◆利用者の負担軽減

- ・自立支援

トータルセーフティケア
(24時間の姿勢管理)



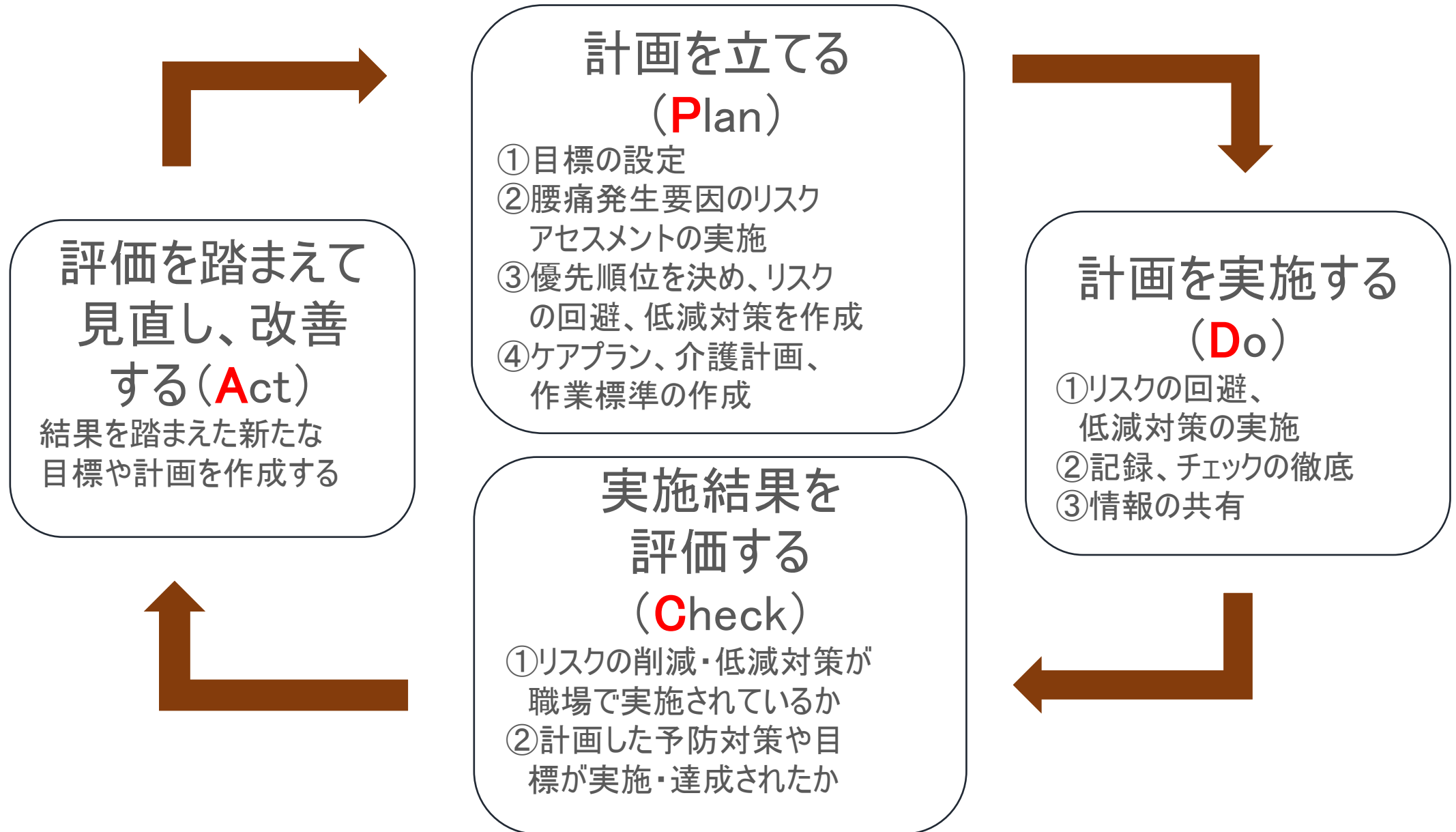



愛媛県ノーリフティングケア

利用者・介護者
双方の安心・安全

負担軽減

ノーリフティングケア普及啓発事業におけるPDCAサイクル



A large red arrow pointing from left to right, serving as a background for the title text.

令和4年度 普及啓発事業の流れと 課題

【愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業】

1. 全体会
2. 実施前調査（導入前アンケート、リスク見積等）
3. アドバイス研修①
4. 個別研修①②、居室等巡回
5. 導入後アンケート（事業所によって延期）
6. アドバイス研修②、居室等巡回
7. 実践報告（愛媛県ノーリフティングケア普及啓発セミナー）

1. 全体会

1. ノーリフティングケアの目的、意識の統一についての説明
2. 介護者の負担軽減として からだの使い方について研修
3. ノーリフティングケアに有効な福祉用具の特徴と使用方法

⇒各推進事業所に持ち帰り、伝達講習を実施

1. 全体会

課題①事業所での職員への目的等の伝達や技術的な講習

- ・全体会は、代表者だけの参加のため、全員への伝達が難しい
- ・今の介護を続けることで起こりうるリスクが理解されていない
- ・福祉用具がないため、技術的な伝達が難しい など

課題②どうしても用具導入が目的のようになってしまっている など



2. 実施前調査

1. 全体会にて様式1～7の説明
2. リスク見積り書～実施計画書の作成（研修後に変更もあり）

課題①

- ・訪問によるアドバイス研修・個別研修までの期間が限られており、対象となる全ての利用者の把握と実施は難しい
- ・職員への実施計画書の周知・技術の伝達ができない
- ・有効と思われる用具の導入ができていない

課題②

- ・導入後アンケートの実施が未定の事業所もある
（腰痛軽減等の検証に至っていない等）

3. アドバイス研修①

●アドバイス研修①

- 協力事業所(モデル事業所)へ訪問し、取組を行った経験から様々なアドバイスを受ける
- リスク見積り書・実施計画書等の確認を行う



4. 個別研修①②、居室等巡回

●個別研修①②

利用者の負担軽減についての研修

①「姿勢を見る」

②「姿勢を整える」



6. アドバイス研修②・居室等巡回

●アドバイス研修②

推進事業所の進捗状況を確認

協力事業所からのアドバイスを受ける

●居室等巡回

推進事業所の都合で巡回の時期はそれぞれだが、

実際の施設内の確認と

利用者の居室を訪問して姿勢についてアドバイスを行う

6. アドバイス研修②・居室等巡回

課題① 延期が相次ぎ、思うように訪問ができなかった

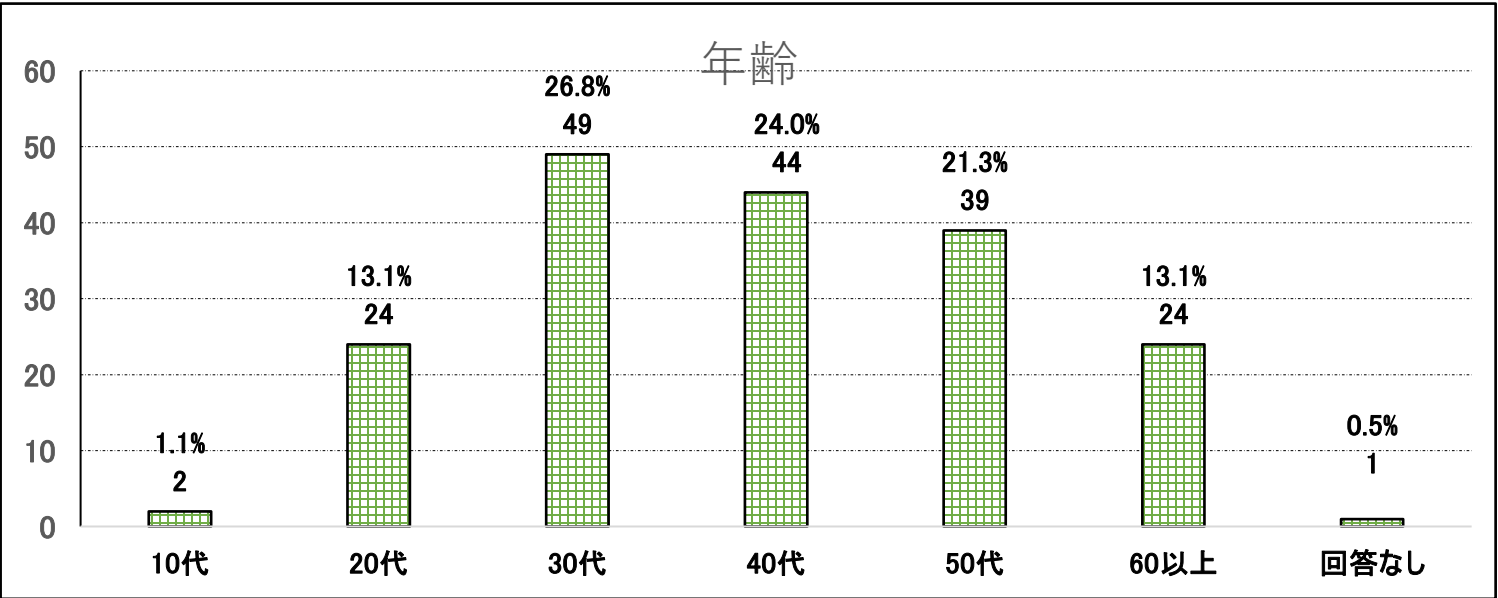
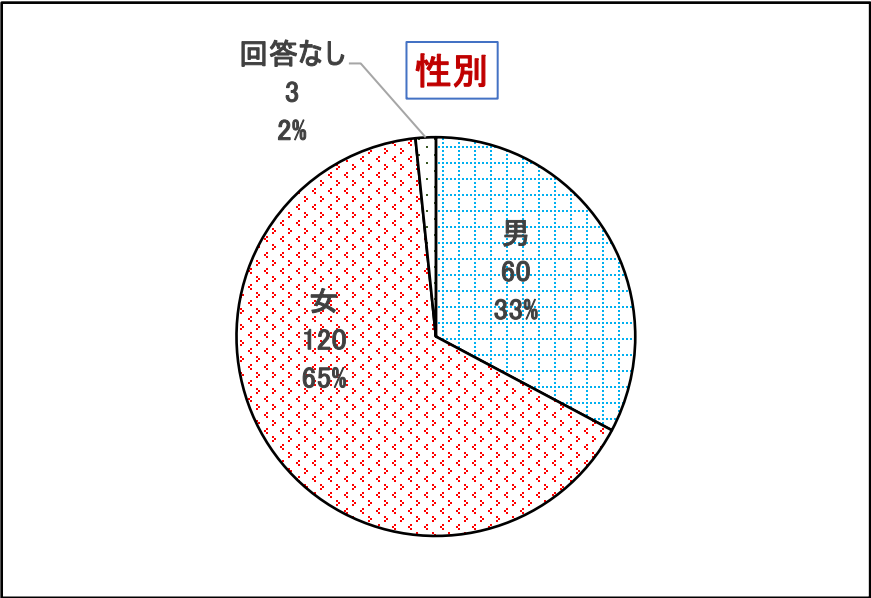
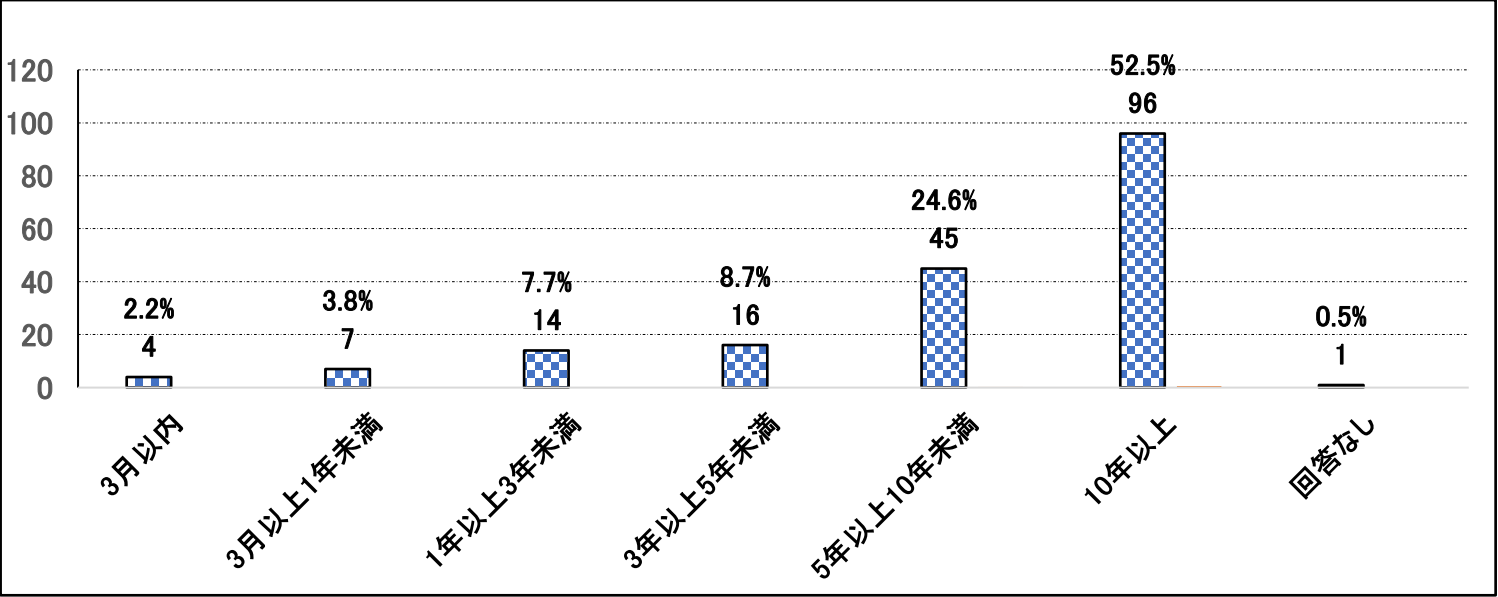
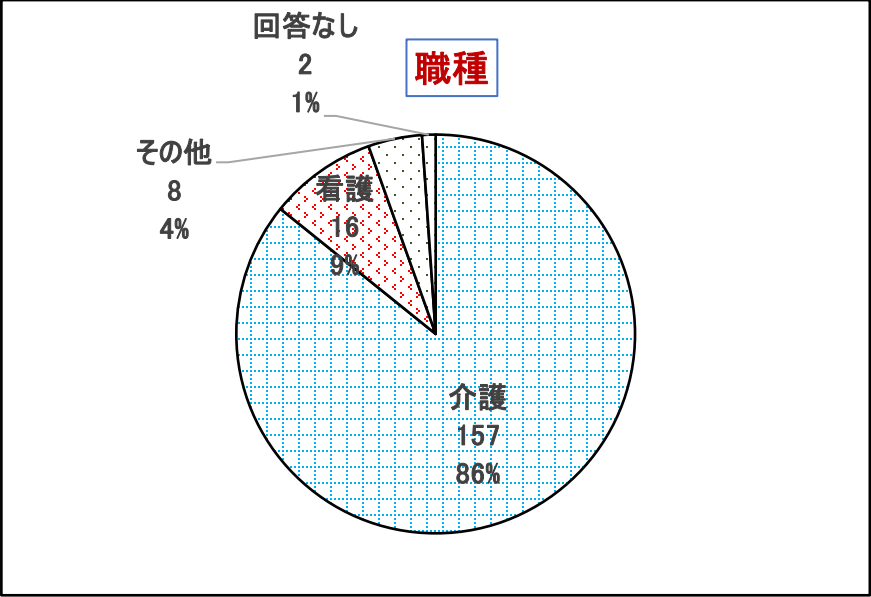
- ・ 1事業所は第1回アドバイス研修のみの実施となる
(協力事業所、協力指導員も活動に参加できていない)
- ・ 個別研修が3月初旬で終了、その後すぐにアドバイス研修

課題② 個別研修の効果や、自分たちで行ってみたいの疑問や課題に
対して、アドバイス研修で助言を行う予定であった
⇒ 来年度に向けてもフォローアップが必要と思われる



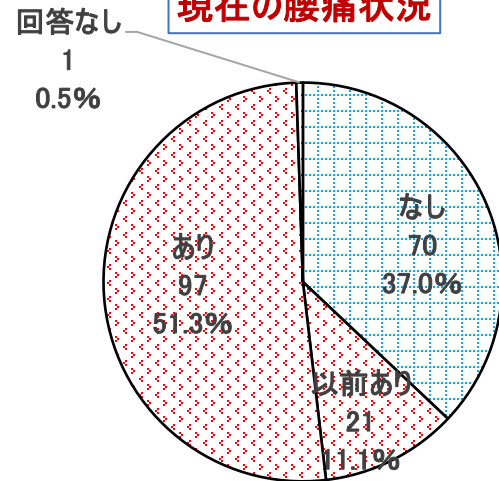
令和4年度 導入前職員アンケート 結果・分析

導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

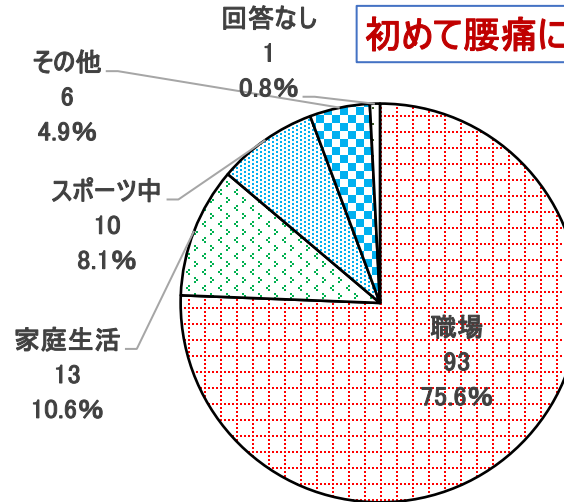


導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

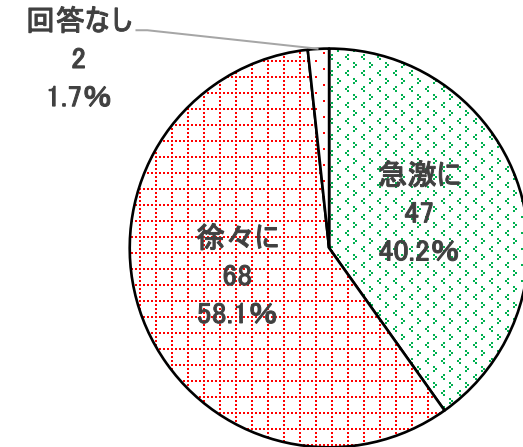
現在の腰痛状況



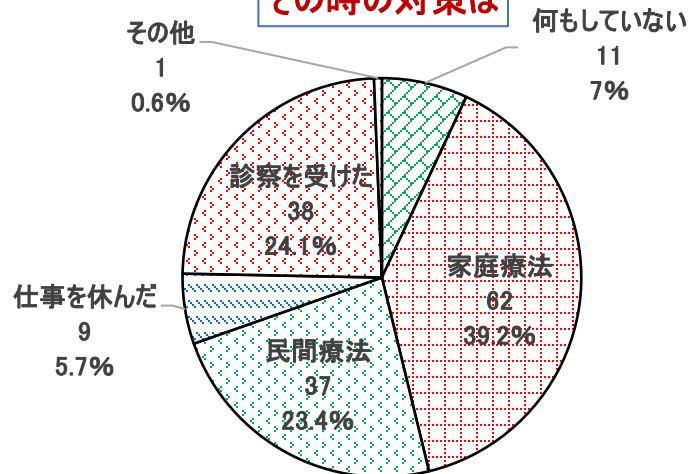
初めて腰痛になった原因は



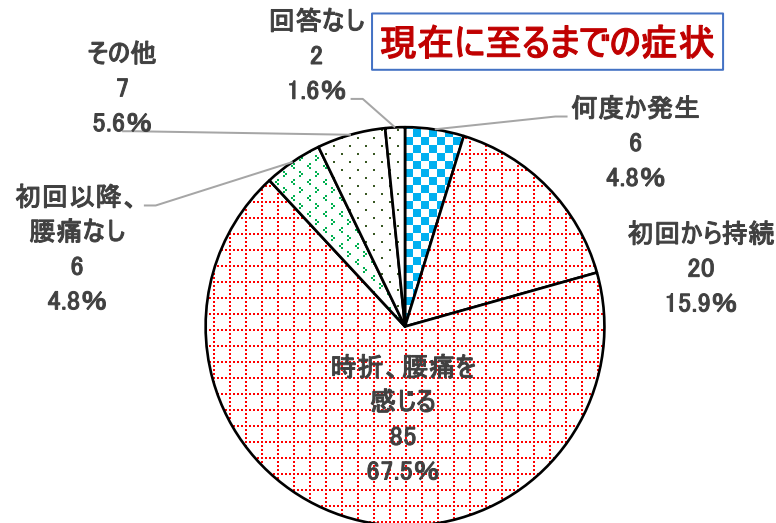
その時の起こり方は



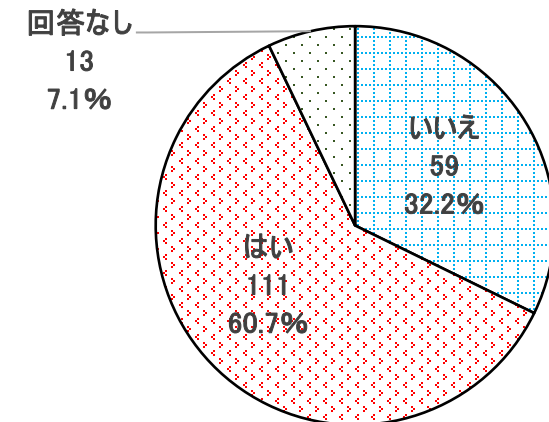
その時の対策は



現在に至るまでの症状

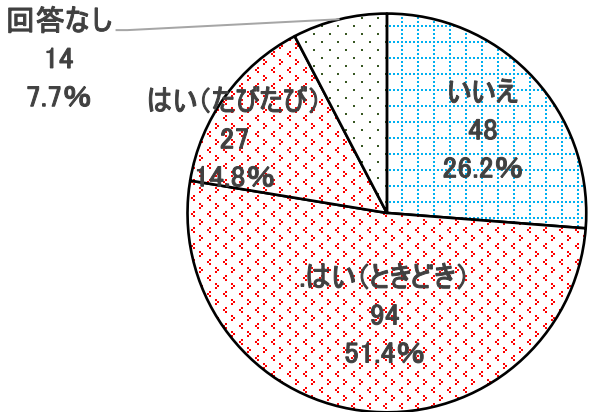


現在腰痛はありますか

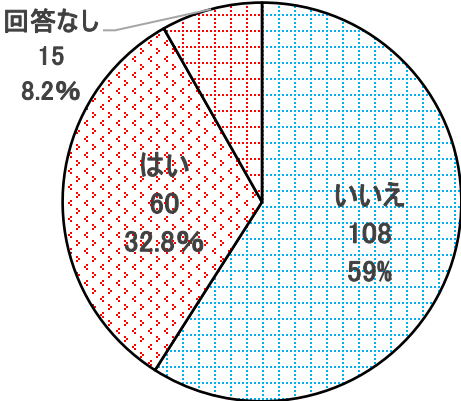


導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

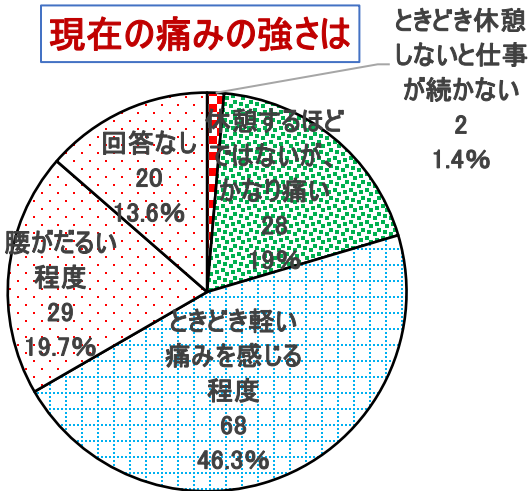
現職に就いてから腰痛になった



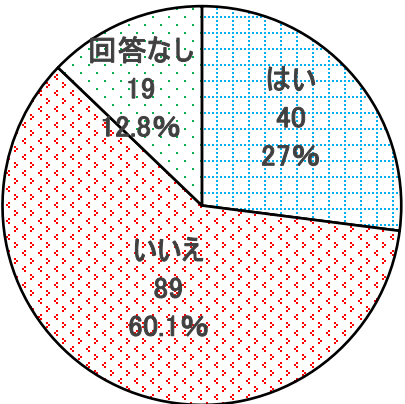
現職に就いてから腰痛が激しくなった



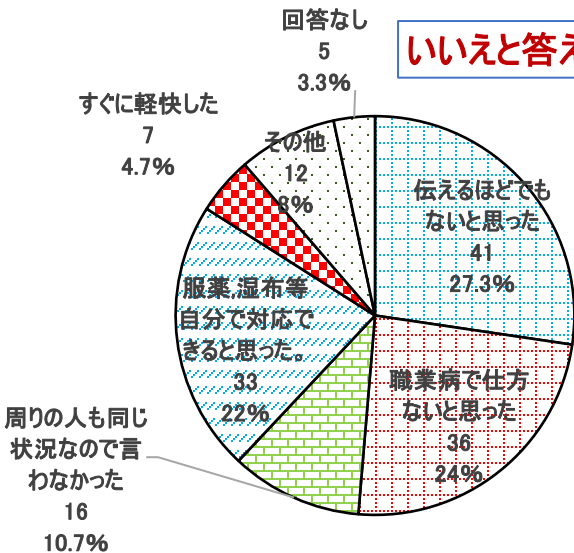
現在の痛みの強さは



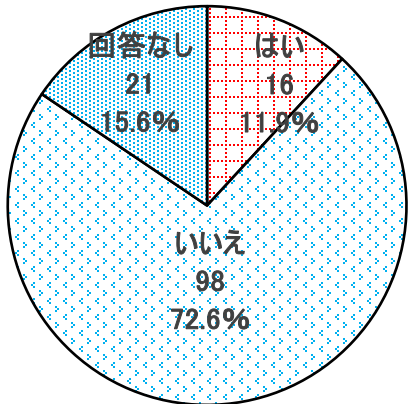
管理職に伝えたか



いいえと答えた理由

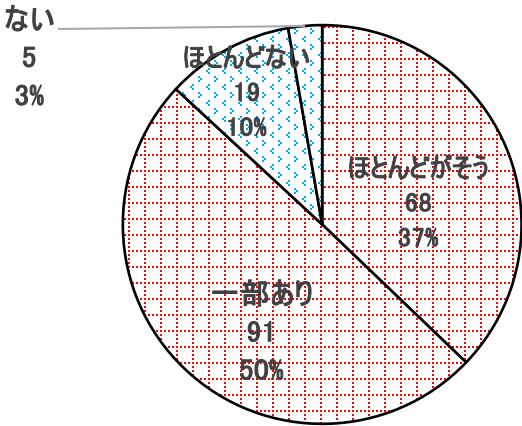


現在治療を受けている



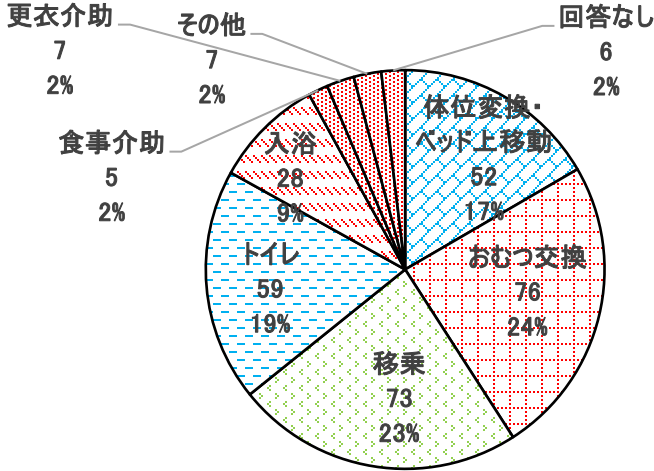
導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

持ち上げや引きずり介助はあるか

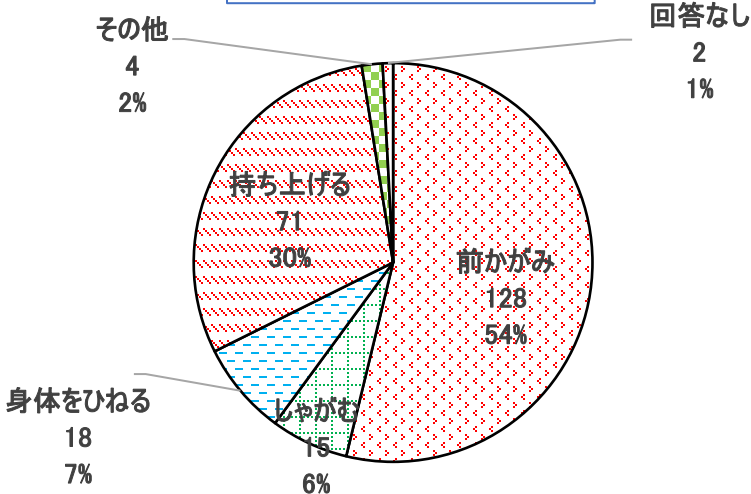


持ち上げ等の介助
87%行われている

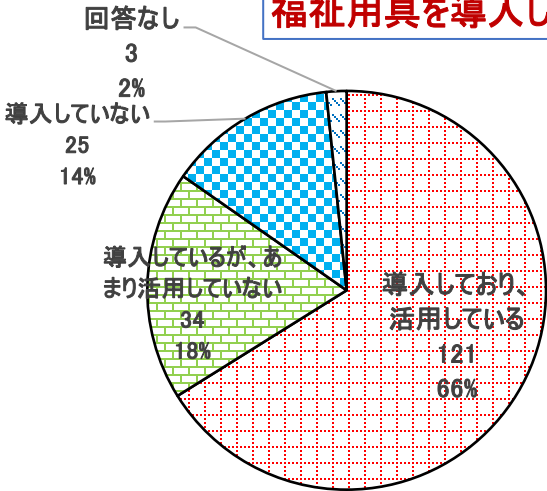
負担の大きい介助場面



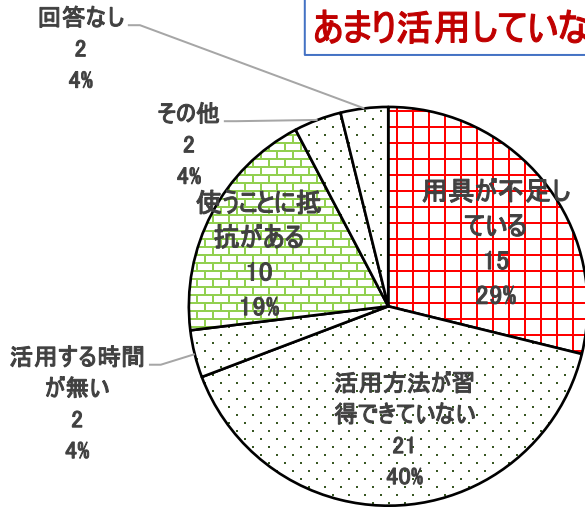
負担の大きい介助姿勢



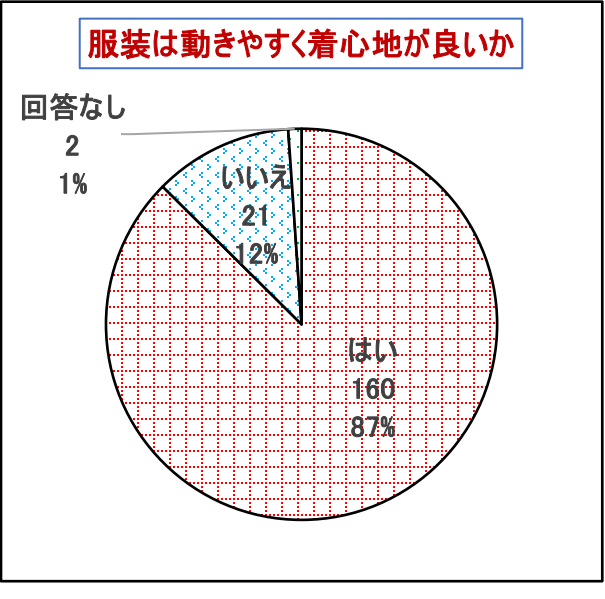
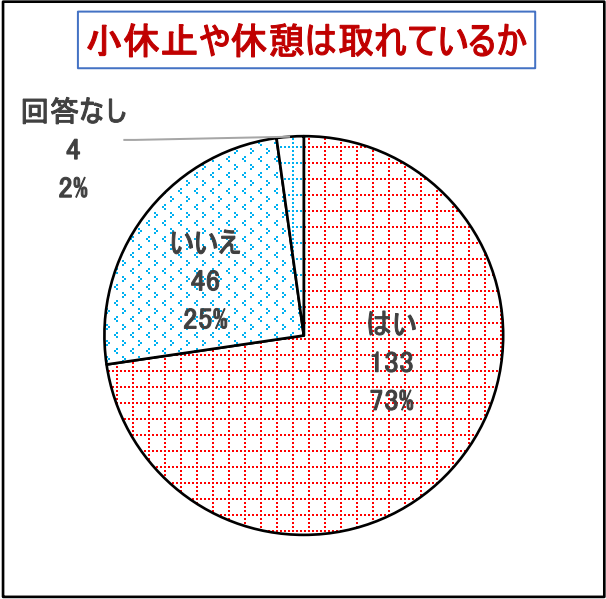
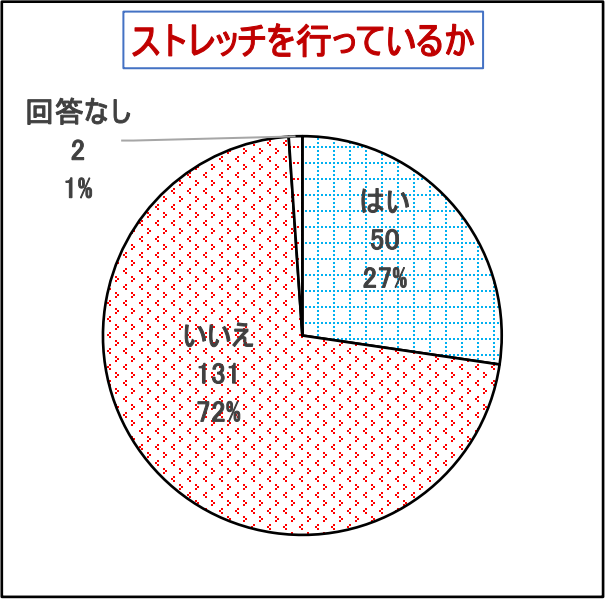
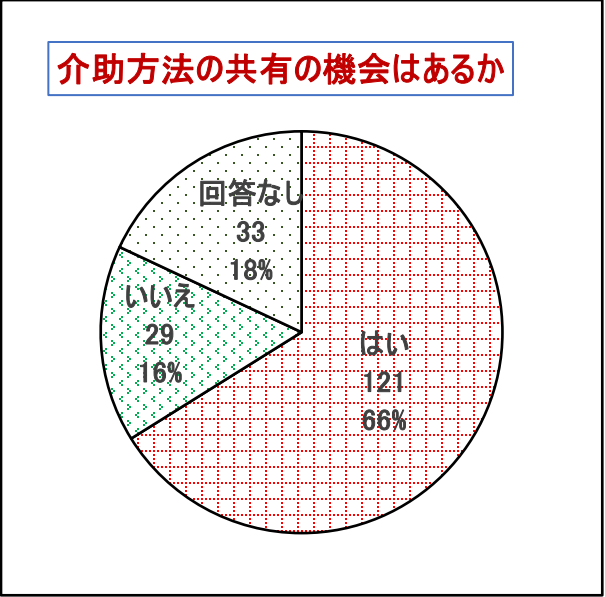
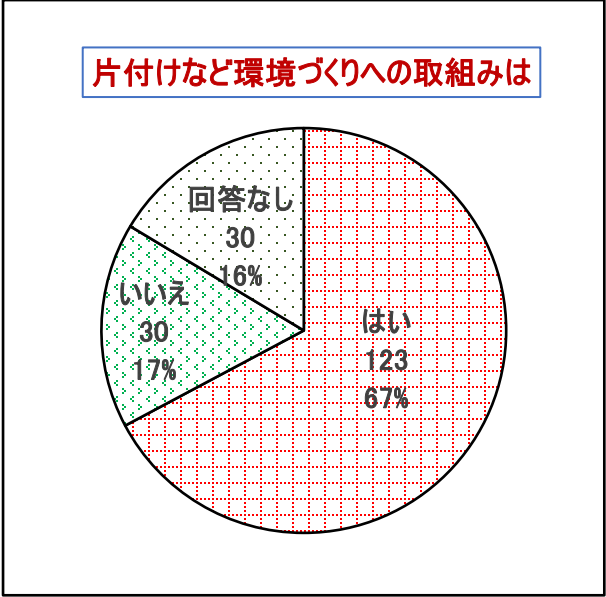
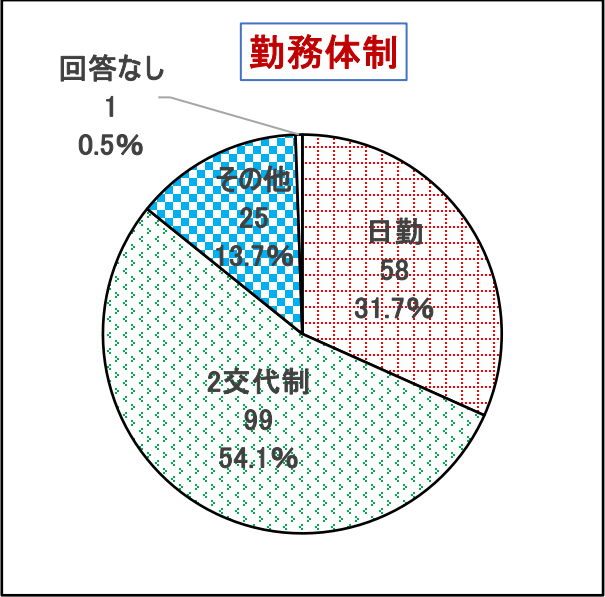
福祉用具を導入しているか



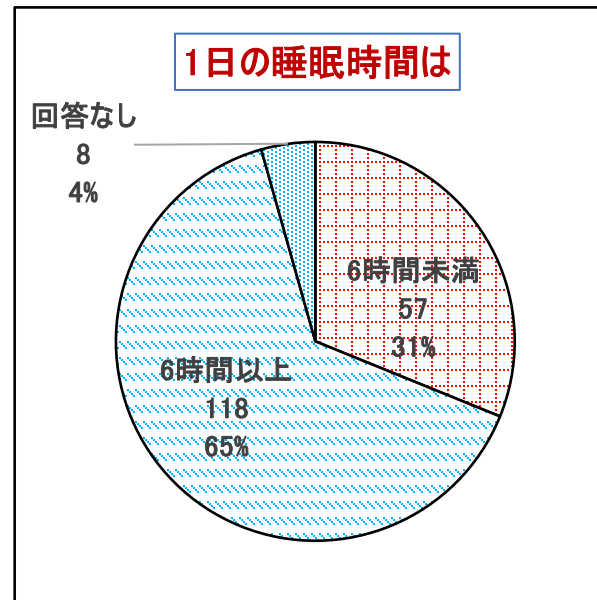
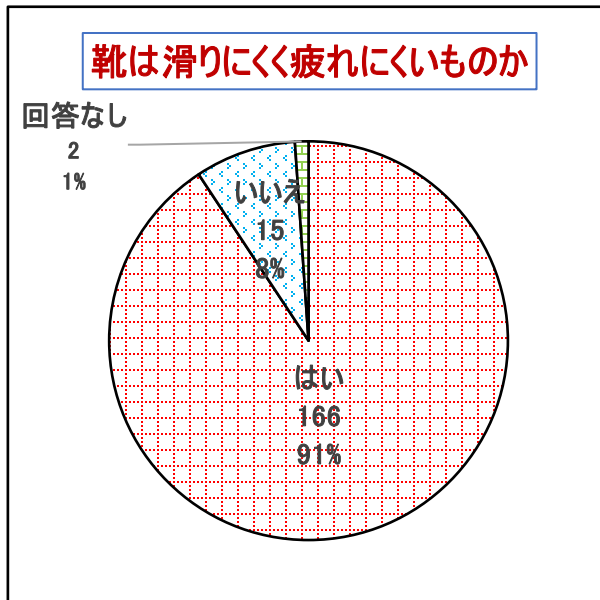
あまり活用していない要因



導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183



導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183



腰痛との関連性: 疲労回復の阻害因子

・勤務体制:

夜勤2交代>3交代(夜勤者は仮眠が重要)

・準備運動の大切さ

・筋疲労による酸欠

・服装は通気性・伸縮性・保湿性のあるもの

・靴は滑りにくく衝撃に強いもの

・睡眠時間:

6時間以下は腰痛 ↑

仰臥位は修復する姿勢

導入前職員アンケートの結果、
実態を把握した上で利用者アセスメントを行い、
双方の負担を軽減させるアプローチを実施

A large red triangle pointing to the left, serving as a background for the text.

ノーリフティングケア 普及啓発事業の 効果について

【ノーリフティングケア普及啓発事業での事業所の変化】

●事業所全体として

- ・協力事業所のアドバイスを受けることで、より具体的な取り組みの進め方など参考にすることができた
- ・協力事業所も推進事業所にアドバイスをを行うことで事業所の取り組みの振り返りになっている
- ・施設の課題に向き合う機会となった
(利用者のリスク見積と職員の負担状況の把握)
- ・環境改善に取り組んだ事業所もある
(電動ベッドの普及や介護ロボット導入に向けての問い合わせ)
- ・全体を通して「意識」が変わったのではないかと感じる



【ノーリフティングケア普及啓発事業での事業所の変化】

- 「姿勢を見る、姿勢を整える」の個別研修と居室等の巡回
 - 利用者に対して**意識の変化**が見受けられる（ほとんどの事業所）
利用者の「**負担軽減**」は何かが伝わる
 - 自分たちが実際に研修で体験したことで理解が深まる
⇒**双方のリスクと負担軽減**の根拠と方法がわかる
 - 自分たちのからだの使い方、ケアの見直し
⇒利用者を**見る視点が変わってきている**

双方の安心・安全、ケアの質の向上
本来の目的（真の目的）が伝わる



今年度の効果の継続と課題の検討を行い
次年度も

利用者が、「**安心・安全な介護**」を受けられること
職員が、「**安心・安全な介護**」を提供できること
【労働衛生管理とトータルセーフティケア】



それが当たり前になるように
これからも取り組んで行きたいと思います

A thick red diagonal stripe runs from the top-left corner towards the bottom-left corner of the slide.

ご清聴ありがとうございました